



【】2021年にリニューアルした本社社屋。快適な職場環境で、従業員からの評価も高い【】社屋のファザードデザインには、「鉄鋼」「未来」「本物」への思いを反映。モダンなフォルムが目を惹く【】大手航空機メーカーの研究技術職から移籍した武久専務。「技術者にはぴったりのワクワクできる職場です」

世界が認める高技術で
人々の安心安全を支える

子どもたちが公園で使う遊具や、普段何気なく使っている車。これらどの安全性の陰には、数えきれないほどのテストが行われていることをご存知だろうか。《株式会社キグチテクニクス》は、身近な遊具や自動車を始め、飛行機やロケットなどの航空宇宙、発電所などのエネルギー業界で使われる材料の品質・性能の評価を実施。要求されているレベルの強さや硬さ、剛性などが確保されているかを調べることで、生産過程の部品や完成品の安全性を確認し、ものづくりを支えている。私たちの安心安全な暮らしを生み出すとともに、未来を創る最先端の技術にも大きな力を添えているのだ。

ガネの研磨を手がける会社として創業後、機械加工や試験部門に事業を拡大していった。国際規格を積極的に取得する戦略を進め、2010年には航空宇宙業界での国際的認証プログラム『Nadcap』を取得。GEを中心とする世界3大航空機工ノジンメーカーのすべてから認証を受けたなど、国内外の大手企業から高い評価を得ている。武久浩之専務は、「継続して認証を受けるのは現

場にとて負荷が高くコストもかかります。しかし毎年、世界中の一流監査官から監査を受けることで現場が鍛えられ、技術力も培われてきたのです」と胸を張る。

試験素材の切り出しから熱処理、加工、試験評価まで、全国でも数少ない一貫体制を築いていることも強みだ。高品質、短納期、低コストを実現し、国際的な競争力を生み出した。年々増加する受注に応じて設備投資も積極的に進め、高温での材料特性を評価するクリープ試験機約300台、疲労試験機約80台を所有するなど、世界有数の試験ラボとして認知されている。

「口大禍で激減していた航空機需要が右肩上がりに回復し、2年連続で過去最高の売り上げと営業利益を記録。25年度もさらに上回る見込みだという。20年度に導入した試験片加工の全自动システムをフル稼働させ、採用の強化やフレキシブルな勤務体制の導入、各職場での改善活動などで生産性を高めてきたが、航空機関連の複数のメーカーなどから現状以上の試験計画の打診が来ていることから、数年以内には一部試験の自動化設備の導入も検討している。

金属以外の新素材試験の需要も高まっている。同社では軽量で強度のあるCFRP（炭素繊維強化プラス

ティック）や、超高温耐酸化性能を有するCMC（セラミック基複合材料）などの試験も実施。超高温や極低温など極限環境が想定される宇宙・エネルギー業界からの依頼も増えしており、地元の島根大学だけでなく、国内外の大学やJAXAなどとの共同研究も盛んだ。

今後、従来の材料試験と並ぶ主軸事業として位置付けるのが、航空機用鍛造素材の非破壊検査だ。国は経済安全保障推進の一環として、超音波探傷検査の国内対応能力向上を担当する事業者として同社を認定。会社は過去最大となる投資を実行し、25年中には松江市内に新工場を建設、最終的に6機の超音波探傷検査（UT）装置を導入する。現在6人が大手素材メーカーに出向し、UT事業に必要な認定資格の取得を目指しており、27年から実際の検査事業をスタートする予定だ。経産省が掲げる計画には国内大手メーカーが名を連ねており、まさに国家事業の一端を担う形となつた。「タッグを組むメーカーさんからは高い期待をいただいています。第二の創業と言えるほどのビッグチャレンジですが、ワクワク感が不安を上回っています」と武久専務。世界のものづくりになくてはならないキーカンパニーとして存在感を高めている。



未来のものづくりを創造 世界を舞台に活躍

国内最大級の独立試験所《株式会社キグチテクニクス》は、さまざまな製品に使われる材料の品質・性能の評価を実施。ものづくりの安心・安全に不可欠な存在として国内外から厚い信頼を得ている。





株式会社 キグチテクニクス

創業 昭和36(1961)年11月1日
代表者 代表取締役 木口 貴弘
社員数 202名(男164名 女38名)
本社 島根県安来市恵乃島町114-15

事業内容

製造業、検査業

勤務地(採用エリア)

安来市

採用区分

新卒採用 キャリア採用

インターンシップ・キャリア

有 随時受け付け。希望により期間や内容を決定するので、まずは問い合わせを。

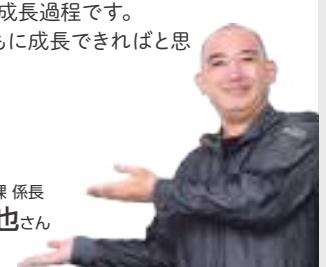


1 2 3 CFRPとGFRPなどの複合材料の試験を担当する成相さん。手がけるのは航空機や発電機など過酷な状況下で使用される材料多いため、試験片にあらかじめ乾燥・吸湿処理を施したり、特殊溶剤に浸漬、熱衝撃負荷などをかけたりしてから、引っ張りや圧縮などの試験を行うことが多い。大阪・関西万博で注目を集める“空飛ぶクルマ”的試験も担った

1 2 3 ワイヤー放電加工機を操作して、大きな素材から数十ミリの試験片に加工する松浦さん。顧客から預かった貴重な素材でロスを出さないよう仕様書を綿密にチェックして、切り出し作業にある。「ヒューマンエラーがないよう確認を重ねます」**4 5 6** 品質保証部では、加工された試験片が顧客の指定や規格に準じているかなどを細やかにチェック。「時には製造部に間違いを指摘することも。正直言いにくいですが、当社への信頼を裏切らないためにも重要な業務だと考えています」と和田さん。需要が伸びる中、スピードも求められるが、何よりも正確性を重視する

採用担当者からあなたへ

さまざまな企業情報に触れて、それぞれの企業の魅力を知ることが企業研究につながってゆきます。研究を進める中で当社にも興味を持ってもらえるとうれしく思います。企業もまだ成長過程です。皆さまとともに成長できればと思います。



採用に関するお問い合わせ先

080-8247-6083

公式サイトへ
こちら



さまざまな企業情報に触れて、それぞれの企業の魅力を知ることが企業研究につながってゆきます。研究を進める中で当社にも興味を持ってもらえるとうれしく思います。企業もまだ成長過程です。皆さまとともに成長できればと思います。

各種機械を用いた試験のうち、最も難しいものとして圧縮試験を挙げる。「内側に向けて荷重をかける圧縮の強度を正確に測定するには、曲げが入らないよう試験片を治具で適切に左右から押さえておく必要があります。治具のセッティングがわざりです。治具のセッティングがわざりでも狂うと正確なデータを取りれないでの神経を使います」

FRPの特性として、FRP積層板の積層界面(異なる層同士が接する境界面のこと)に損傷が入ると、外観上では異常がなくとも圧縮で積層界面の剥離が一気に進むことがあります。そのため、人工的に内部に損傷を生じさせた後、圧縮を行つてA-I試験も行っている。

県外の大学で複合材料を専門に学んでいたが、地元にある企業が同様の事業を行っていることは親の勧め

直径0.1~0.3ミリ程度の極細黄銅線で、材料を溶かしながら顧客の指示書に従つて加工。「何度も指示書を確認し、数値に間違いがないかチェックして作業にあたっています」。松江工業高校時代は機械科で溶接や旋盤加工などを修業。自宅で、チャレンジ旺盛な点に惹かれて入社を決めた。

社内には、いわゆる文系人材も少く、確かに迅速に試験片を検査

複合材料試験にも注力

製造部が作った試験片を用いて、材料特性や組織などを調べるのが試験部だ。試験片を引っ張ったり、曲げたり、つぶしたりして、強度や耐久性、安全性、韌性などを評価する。成相輝希さん(26)は、CFRPなどの複合材料の試験を主に担当。

で調べるまで知らなかつたという。「学んだことを生かせるなら」とキビシに足を踏み入れた。大学では自身で試験片加工も行っていた経験から、「当社の加工技術はすごい」と感嘆する。

未来を形にするものづくりの現場

難削材も高精度に加工

試験業務で、最初に必要な工程は試験片の製造だ。顧客に提供された素材から、指定の部位を各種機械で切り出し、必要に応じて熱処理を行つて小さなピースに加工していく。

く。製造一課の松浦久司さん(22)は、ワイヤー放電加工機を操作。最大長さ2メートル、幅1.5メートルの素材から、數十ミリ程度の試験片に加工する。扱う素材の多くは鉄やアルミだが、時には初めて扱うもの。形状もさまざま、素材を見

る会社だなどと思いました」。現在はマイクロメーターやノギス、投影機などの寸法測定器のほか、拡大鏡などで試験片の外観をチェックす

る。「試験結果に直結するので責任重大。会社の信頼を失墜させないよう製造部と連携して業務にあたっています」

コロナ禍を経て試験業務の受注が伸びる中、部署の業務も増加。「一ヶ月で数千の試験片を検査している。正確性とスピードを両立させ、製造部と連携して業務にあたっています」

多くの複合材料を扱う業務に携わっていること、効率性をより高めていくことが目標です」。学生時代は数学が苦手だったという和田さん。ミクロン単位の数字を扱う業務に携わっていることに自身でも驚いている。

なくない。大学で英文科に所属していた和田悠希さん(25)は、地元で海外と関わりの深い企業を探す中、牛

の存在を知った。「将来性があ